

町内会の

電子回覧板

導入の手引き

導入・検討した町内会の事例付き！

こんな町内会の参考に！

電子回覧板を
どうやって導入
すればいいか
わからない…

他の町内会が
どんな体制で
電子回覧板を
運用しているか
知りたい…

回覧板をもっと
多くの会員に
見てほしい…

札幌市

1.はじめに	1
(1)はじめに	1
(2)この手引きの使い方	1
2.電子回覧板	2
(1)電子回覧板とは	2
(2)電子回覧板として活用可能なツール	2
3.導入にあたって	3
(1)事例から見る電子回覧板ツールの選定	3
(2)町内会の運用体制づくり	3
(3)会員への周知	4
(4)紙の回覧板との併用	4
4.電子回覧板の導入事例	5
～電子回覧板を導入している5つの町内会～	
①西創成第二町内会(中央区)	5
②山鼻第11町内会(中央区)	6
③東かりきひかりの町内会(東区)	6
④南ひばりが丘町内会(厚別区)	7
⑤農試公園町内会(西区)	7
5.モデル町内会の支援事例	8
～電子回覧板の検討・導入を行った10地区のモデル町内会～	
①宮の森中央町内会(中央区)	9
②学田第二町内会(北区)	10
③栄北第3町内会(東区)	11
④北郷親栄第七町内会(白石区)	12
⑤厚別中央振興会(厚別区)	13
⑥ロピア西岡町内会(豊平区)	14
⑦北野町内会(清田区)	15
⑧澄川第七町内会(南区)	16
⑨ヴェルビュタワー琴似町内会(西区)	17
⑩四季彩の街・テイネニュータウン町内会(手稲区)	18
6.実際の導入に向けて	19

1.はじめに

(1) はじめに

ここ10年で人々の生活スタイルは大きく変化し、「幅広い世代でのインターネット利用拡大」や「情報通信機器(スマートフォンやタブレット等)の普及」など、日常生活のデジタル化が日々進んでいます。

2021年に総務省が実施した調査「ウィズコロナにおけるデジタル活用の実態と利用者意識の変化に関する調査研究」によると、情報通信機器として「普段、私的な用途のために利用している端末について」の質問に、実に89.4%の方が「スマートフォン」を利用していると答えています。

一方で、町内会・自治会(以下「町内会」とします)が会員に情報を伝える際の手法は、回覧板などが中心となっており、人から人へ手渡す直接的なつながりが、地域での「交流」や「見守り」の一端を担っています。

しかし、昨今の生活スタイルの多様化や新型コロナウイルス感染症の影響などにより、回覧板に対するご意見や不安を感じる声が寄せられるなど、新たな情報発信の手法が町内会にも求められてきています。

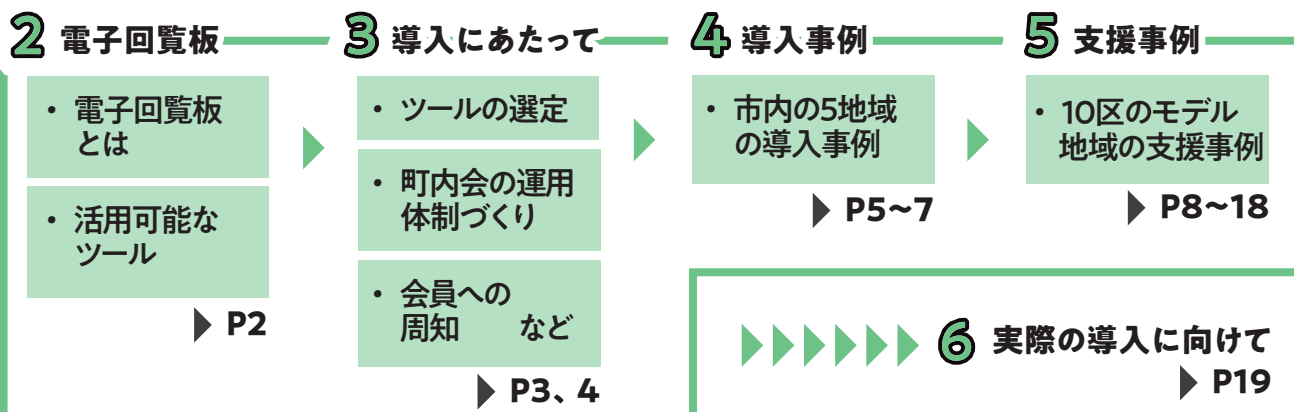
本冊子では、「電子回覧板」についての説明や、導入を検討する際の考え方などを実際の事例を交えてまとめました。

本冊子が今後の町内会の情報伝達手段を検討する際の参考になれば幸いです。

(2) この手引きの使い方

本冊子では、「電子回覧板」に対する考え方や、導入にあたって検討すべきポイントなどを、以下の順にまとめました。

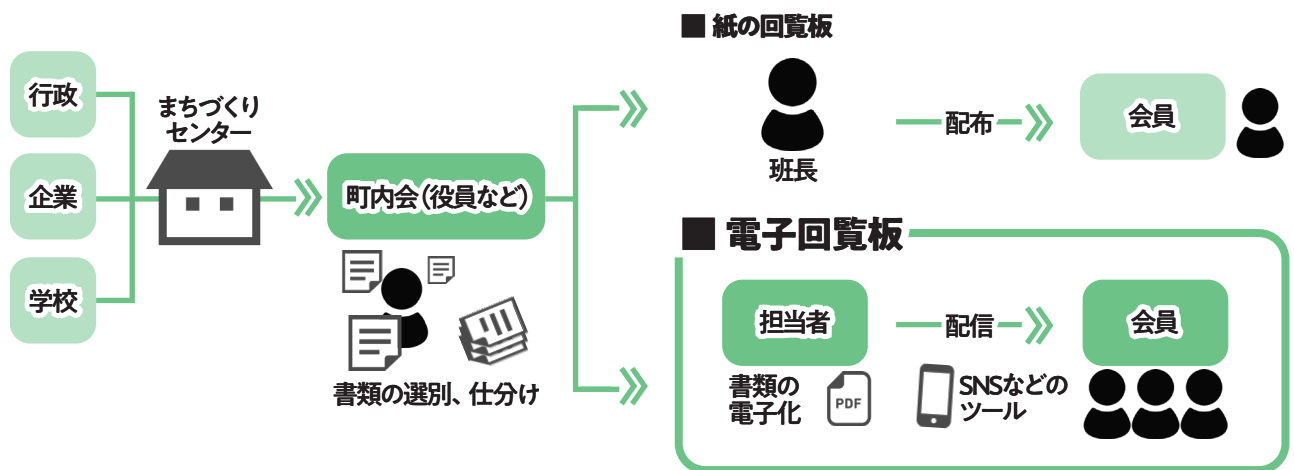
導入事例・支援事例では、町内会の規模や特徴なども掲載していますので、ご自身の町内会に合った事例を参考にしてください。



2.電子回覧板

(1) 電子回覧板とは

本冊子では、これまでの紙の回覧板を画像などに電子化し、SNSや電子メール、ホームページなどのインターネットを活用して会員に届ける仕組みのことを「電子回覧板」と呼んでいます。どこにいても手軽に情報を入手することができ、定例の回覧板だけでなく、急な町内会からの情報発信にも役立てられています。



(2) 電子回覧板として活用可能なツール

本冊子では、町内会や地域の情報を電子化し、会員に届けることが出来るツールのことを「電子回覧板ツール」と呼んでいます。電子回覧板ツールは多様であり、それぞれの町内会に合ったツール選びが必要になります。

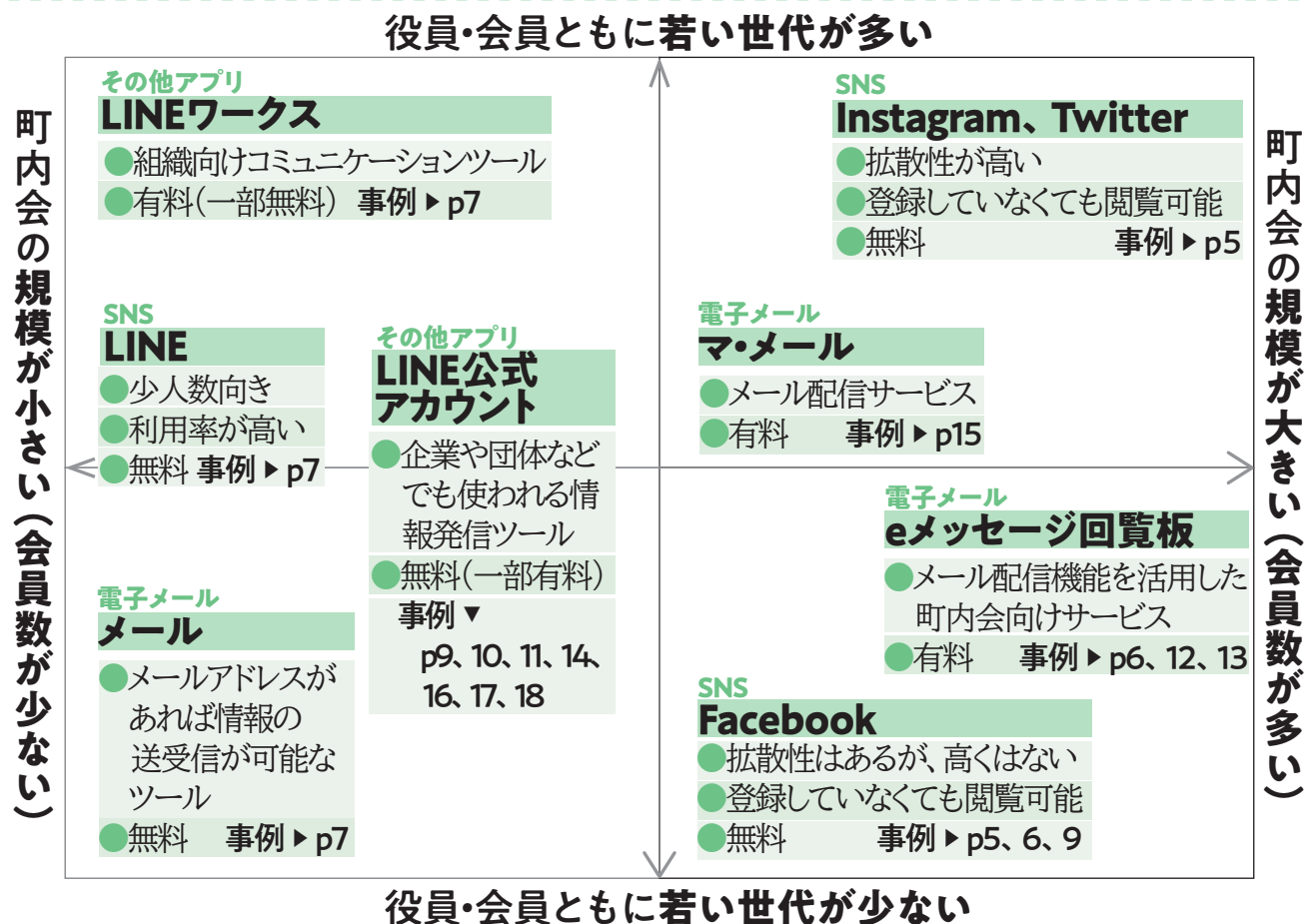
ツールの種類	概要	費用
SNS	スマートフォンのみでも閲覧や運用が可能であり、各SNSの特徴を生かした情報発信が可能。また、普及率の高いSNSなどは、会員への操作説明も容易。	無料 (一部) 有料
電子メール	メーリングリストやメール配信システムを活用すれば、一度に多くの人への情報発信が可能。また、町内会向けの専用サービスなども存在する。	有料
ホームページ	掲載された内容は誰でも見ることができる。また、会員のみ閲覧可能とするため、パスワードなどを設定し、閲覧制限をかけている場合もある。	有料
その他アプリ	組織向けのコミュニケーションツールや町内会向けのコミュニティアプリなども存在している。多くの場合は、受け取る側の会員にもアプリを登録してもらう必要がある。	有料 (一部) 無料

※無料で利用できるツールでも、別途、通信料がかかります。

3.導入にあたって

(1) 事例から見る電子回覧板ツールの選定

電子回覧板を導入するためには、町内会の世帯数や役員等の実情に合わせて、ツールの選定や運用体制づくりを検討することが必要です。



その他ツール

- ホームページ**
ホームページ、ブログ
- 大人数向き
 - 企業や団体などでも使われ、一般的な情報の掲載や更新情報の発信が可能なツール
 - 有料 事例はp6、9、16



※無料で利用できるツールでも、別途、通信料がかかります。

(2) 町内会の運用体制づくり

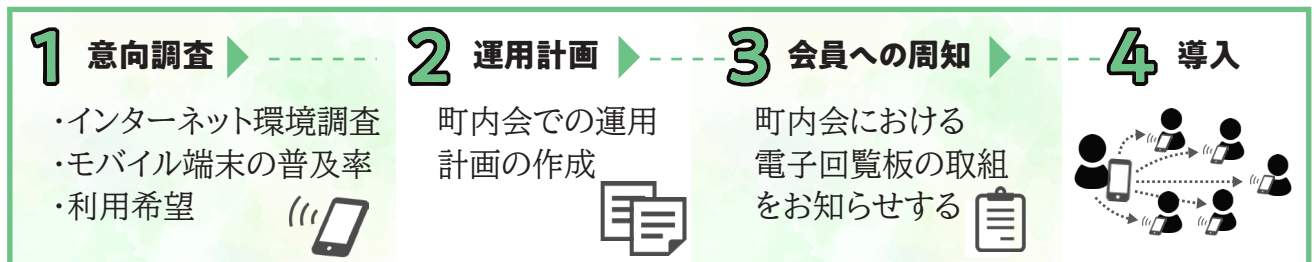
- 回覧板の「回覧物の選定」「電子化(スキャン作業等)」「配信作業」と役割ごとに担当者を決め、効率的に行いましょう。
- 担当できる役員などがない場合は、**地域にサポーターを募集する**のもよいでしょう。———▶(事例p18四季彩の街・テイネニュータウン町内会)
- 電子回覧板の導入を検討するにあたり、まずはデジタル化に慣れるため、**SNSなどを使った役員同士のコミュニケーションを導入してみる**のもよいでしょう。———▶(事例p13厚別中央振興会)

(3) 会員への周知

電子回覧板の導入を会員へ周知する際には「電子回覧板を導入する目的」や「電子回覧板の登録・利用方法」、「利用する上での注意点」などを、丁寧に説明することが大切です。

また、導入前の事前周知や導入への意向確認、紙の回覧板との併用の有無など、事前にアンケートを取り、計画的に進めていくことで、スムーズな導入につながる場合があります。

導入までの流れ【一例】

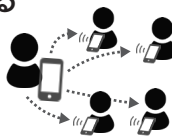


(4) 紙の回覧板との併用

「電子回覧板」＝「紙の回覧板を廃止する」というイメージを持たれる方もいますが、本冊子で掲載している事例の多くは、紙の回覧板も併用しています。電子回覧板はメリットだけでなくデメリットも存在し、各町内会の状況によってもその判断が異なります。初めから「紙の回覧板の廃止」を前提にするのではなく、導入後、会員の意向なども踏まえて検討しましょう。

○メリット

- ・情報がすばやく一斉に届く
(手渡しによる受取の時差がない)
- ・緊急時の情報発信にも役立つ
- ・どこにいても情報が受け取れる
- ・過去の内容が見返せる
- ・若い世代も情報を受け取りやすい



×デメリット

- ・通信機器を持っていない世帯には届けられない
- ・スマートフォンなどでは画面が小さく見づらい
- ・紙の回覧板との併用では、町内会の負担が増える
- ・ツールによっては費用負担がかかる



4.電子回覧板の導入事例

～電子回覧板を導入している5つの町内会～

人々の生活スタイルの変化に対応し、札幌市内でも町内会や地域の情報を電子化して届けている町内会があります。今回は5つの町内会での取り組みについてご紹介します。

①西創成第二町内会(中央区)

④南ひばりが丘町内会(厚別区)

②山鼻第11町内会(中央区)

⑤農試公園町内会(西区)

③東かりきひかりの町内会(東区)



①西創成第二町内会 中央区

導入時期:平成30年11月～

高齢者に対しては今までどおり紙の回覧板を回覧しつつ、地域の若い世代に少しでも町内会の活動が届くようにと、若い世代の利用が多いSNSを電子回覧板のツールとして選んでいる。



※2022年3月現在

加入世帯	班構成	役員数	地域の特徴
197世帯	6班	3名	40～50代も居住するが、高齢者と単身者の2極化の傾向

導入ツール: Facebook、Instagram、Twitter

● 担当者: 2名
(40代会長、30代副会長)

📄 特徴的な配信内容
ゴミの出し方、イベント情報

会長が担当しているFacebookの内容を、副会長がInstagram、Twitterに投稿。紙の回覧物を複合機でスキャンして電子化し、画像として投稿している。

導入の成果

- SNSで情報を発信することで、若い世代が町内会の動きに気がついてくれていると思う。
- SNSは町内会の経費をかけずに行うことができる。

導入の課題

- 電子回覧板を通じて、会員とコミュニケーションが取れているかはわからない。そのため、今後、周知を徹底すべきかは検討している。

写真



②山鼻第11町内会 中央区

導入時期:平成28年1月～

役員の方に町内会のブログを制作してもらい、情報を発信している。特に、ファミリー世代に活用されているという声が聞かれる。

※2022年3月時点



日程	介護予防教室	
3日(木)	Yamahashi Brain activity School 山鼻脳活性化教室 毎週第3日曜日に開催される。日曜日の午前中に開催し、午前中に脳活性化教室、午後には地域の特色を伝える。山鼻第11町内会が主催する。山鼻第11町内会が主催する。山鼻第11町内会が主催する。	山鼻第11町内会
14日(月)	オンライン介護予防教室 山鼻第11町内会が主催する。山鼻第11町内会が主催する。山鼻第11町内会が主催する。	山鼻第11町内会
17日(木)	山鼻第11町内会が主催する。山鼻第11町内会が主催する。山鼻第11町内会が主催する。	山鼻第11町内会
18日(金)	山鼻第11町内会が主催する。山鼻第11町内会が主催する。山鼻第11町内会が主催する。	山鼻第11町内会
12日(火)	山鼻第11町内会が主催する。山鼻第11町内会が主催する。山鼻第11町内会が主催する。	山鼻第11町内会

★回覧板

すこやか倶楽部 2月だより・3月…

February 22, 2022 00:52

加入世帯	班構成	役員数	地域の特徴
575世帯	43班	21名	マンションが7割を占め、ファミリー層が住む戸建てが増加傾向である。

導入ツール：ブログ(メイン)、Facebook(サブ)

● 担当者：1名
(総務副会長)

● 特徴的な配信内容
児童会館のイベントや検診情報など

イベントや検診など町内会の会員に必要な情報を選択し、月に1度配信している

導入の成果

- 児童会館のイベントなどをブログに載せているため、子どものいる世帯が多く活用しているようだ。
- 情報を見たい時に見ることができると好評である。

導入の課題

- 担当者が今は1人なので、複数名で運用できるとよい。
- 継続するために若い世代が参画できると安心である。
- 個人情報の掲載は、慎重に検討することが必要。

③東かりきひかりの町内会 東区

導入時期:平成30年12月～

紙の回覧板を回覧するのに1ヶ月かかる班などもあったため、情報をより早く届けるために電子回覧板を導入した。

※2022年3月時点



加入世帯	班構成	役員数	地域の特徴
338世帯	16班	12名	比較的新しい町内会。居住者は子育て世帯が多く、戸建て住宅が大半を占めている。

導入ツール：eメッセージ回覧板

● 担当者：1名
(広報隊役員)

● 特徴的な配信内容
イベント、総会の開催情報

町内会の会員の99%近くがメール登録済みであり、担当者にとっても使いやすいツールである。

導入の成果

- イベントや総会など全会員に届けたい情報を早くまわすことができる。
- 会員からの問い合わせは、メールで来るので返信し対応しやすい。

導入の課題

- 担当者がほぼ専任になっているため、複数名で扱えるような体制づくりが必要。



④ 南ひばりが丘町内会 厚別区

導入時期:令和3年8月頃～

若い役員から町内会活動のデジタル化の話があり、回覧板の電子化を検討。
ツールに詳しい方が役員になったことをきっかけに導入した。

※2022年3月時点

大事なお知らせです。必ず読んで下さい。

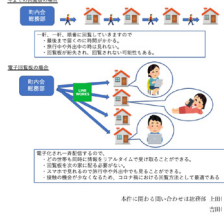
町内会の回覧板の電子化について

令和3年7月27日
南ひばりが丘町内会役員会

町内会業務の効率化、関係者の負担軽減を目的として、デジタル化を進めた町内会の役員、関係者の皆様へ、お知らせいたします。町内会の業務は、主に紙の回覧板で行われておりましたが、その一部として回覧板の電子化を進めております。当に、LINE WORKS というアプリを用いて、メール・LINE・パソコン・タブレット・スマートフォンで町内会の業務を行います。町内会の業務は、主に紙の回覧板で行われておりましたが、その一部として回覧板の電子化を進めております。当に、LINE WORKS というアプリを用いて、メール・LINE・パソコン・タブレット・スマートフォンで町内会の業務を行います。

電子回覧板での配信により、町内会の業務がより迅速に行われることが期待されます。また、紙の回覧板の印刷・保管の手間が省け、負担が軽減されます。また、紙の回覧板の印刷・保管の手間が省け、負担が軽減されます。

LINE WORKSを使った電子回覧板のイメージ



加入世帯	班構成	役員数	地域の特徴
141世帯	7班	12名	共同住宅には30～50代、戸建てには60代以上の住民の割合が多い。

導入ツール：LINEワークス

● 担当者：3名
(役員、会長、総務部長)

特徴的な配信内容
新たな回覧物が届き次第、順次配信している

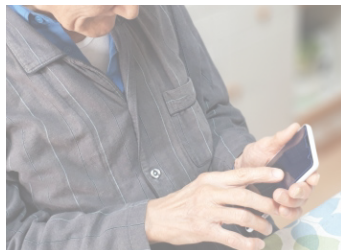
登録した世帯には紙の回覧板を回さないようにし、現在は70%以上の世帯が登録。管理者は会員が既読したかを確認することができ便利。

導入の成果

- 役員間で情報を共有できることが便利。
- 登録者も増えてきており、会員からの感触は良いことがわかる。

導入の課題

- 電子回覧板では情報が迅速に届けられるが、紙の回覧板は時間がかかってしまうため、情報格差が生じてしまう。



⑤ 農試公園町内会 西区

導入時期:令和2年11月頃～

令和2年11月に町内会が発足し、発足時から紙の回覧板は実施せず、電子回覧板を導入。手間をかけず、できるだけシンプルな方法で実施。

※2022年3月時点

加入世帯	班構成	役員数	地域の特徴
173世帯	16班	16名	若い世代が多い町内会。

導入ツール：メール、LINE

● 担当者：5名
(会長、総務部、役員)

特徴的な配信内容
過去の回覧板は、Googleドライブにアーカイブ

役員や各班ごとにLINEやメールのグループを作成し、担当者から各班長へ、班長から各班のグループへ回覧板を配信している。

導入の成果

- 会員が、過去に送付された情報をいつでも見ることができて便利。
- 回覧物の印刷、保管の手間が省け、負担が少ない。
- 会員に対し、同じタイミングで情報共有ができて便利。

導入の課題

- 書類をPDFにする作業を、現在は担当している役員に任せているが、パソコンやスキャナーなどの適切な環境がなければ、スムーズな作業をすることは難しい。



5.モデル町内会の支援事例

～電子回覧板の検討・導入を行った10地区のモデル町内会～

札幌市では、令和3年度に「電子回覧板モデル事業」として、モデル町内会(各区1地区、全10地区の単位町内会)を募集し、電子回覧板の検討・導入を支援しました。検討から導入までの主な流れは、以下のとおりになりますので、ぜひ町内会で検討する際の参考にしてください。



意外と簡単！

多様な世代に合わせて、
多様なツールを用意



宮の森中央町内会
松田会長

継続して周知活動に取り組み、
LINE公式アカウントの登録者を
増やしていきます！

加入世帯数

1,850世帯

班構成

155班

役員数

25名

地域の特徴

町内会と班長をつなげる役割を担う地域連絡員を8名配置。

導入前の状況

回覧板は月に2回実施している。ホームページとFacebookを運用しているが回覧板の情報は掲載していない。

- ホームページとFacebookはイベントの情報や写真を掲載しているが、閲覧しているのは町内会以外の人が多い。

導入の目的

紙媒体よりもすぐに情報発信が可能であり、読んでもらいやすくなるため。

- 将来的に、会員ごとに読みやすいツールを利用できるようにするため。

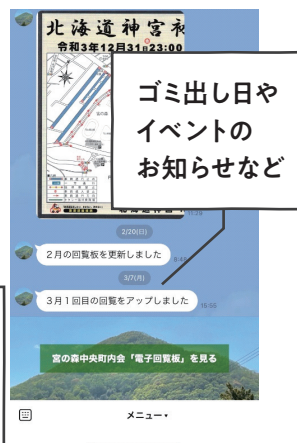
導入ツール

LINE公式アカウント、Facebook、ホームページ

POINT

Facebookを運用しながら、紙の回覧板も配布！
会員によって読みやすいツールを用意し、利用者を増やす。

町内会ホームページも活用！
これまでの定番の情報と問い合わせ先として活用。



導入の成果

会員にとってLINEなどのオンラインツールが日常に！

登録者：258名（2022年3月現在）

町内会ではこまめな情報発信が重要だと考えており、電子回覧板はとても有効な手段であることがわかった。
また、宮の森中央町内会は世帯数が多いため、長期的に計画し登録者を増やすことが必要だともわかった。

運用を続けるうえでの課題

- 高齢者の方にも登録してもらえよう工夫が必要。
- 必要な情報を一度に多くの人に届けられる方法を取り入れることが必要（有料プランの導入など）。

運用体制

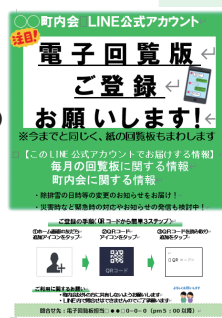
1

担当者 3名

2

会員への周知方法

- LINE公式アカウントとFacebookへの登録を促すチラシを全戸配布（2回）



次年度以降の運用について

登録者を増やすことを目的として、イベントや町内会の配布物などと一緒に、LINE公式アカウントの登録を促すチラシを配布する。

LINE経由で直接招待 リアルタイムで地域情報を配信



学田第二町内会
大糰会長

会員さんに直接『声』を届けたいと思っています。また、防災無線に代わるものが欲しいです。

加入世帯数 381世帯 班構成 21班 役員数 33名 地域の特徴 高齢者が多いが、子育て世代も増えつつある。

導入前の状況

回覧時期は明確に決めておらず、たまったら回覧している(月1~2回程度)。緊急の連絡や総会資料は各家庭に配布している。

- 足が不自由な会員に、会長が個人的に回覧板の内容をLINEで送っていた。

導入の目的

紙の回覧板だと、「すぐに回さない」という気持ちから、家庭内で目を通す人が限られているようで、若い世代にも見てもらいたかったため。

導入ツール

LINE公式アカウント

POINT

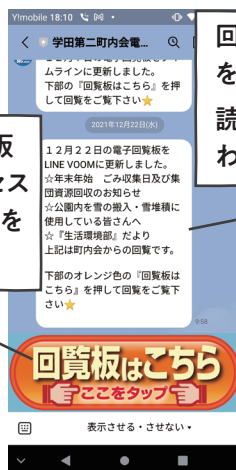
LINE上で回覧物の確認ができ、更新もすぐにお知らせ！
スマホで撮影した回覧物の画像を投稿し、更新メッセージも配信。

リアルタイムな情報発信を行い、会員の生活を支える！
急な行政からのお知らせや排雪に関する情報などをすぐに配信。

最新の回覧板
一覧にアクセス
できるボタンを
設置

回覧板の内容
を簡単に説明
読む側も
わかりやすい

スキャンアプリ
で画像化して
いるので、拡大
して見やすい



導入の 成果

回覧板以外の情報も発信し、 より便利に！

登録者: 164名 (2022年3月現在)

急なお知らせも役員の手を煩わせることなく、早く会員に届けられるようになった。さらに、会員の困りごとを配信して解決できる会員を探すなど、電子回覧板を通して担い手を募集することも今後の使い方として期待できる。

運用を続けるうえでの課題

- LINE公式アカウント(無料プラン)の規定の通数を超過しないように配信のタイミングを調整したり、配信する内容を選ぶ必要がある。

運用体制

1 担当者 1名(会長)

2 会員への周知方法

- 会長とLINEでつながっていた会員36名(役員含む)をLINEで招待
- 登録を促すチラシを配布(2回)



次年度以降の運用について

- 登録案内のチラシを町内会新規加入者に配布する。
- 不審者や詐欺の注意喚起など、生活に関する情報発信も継続する。

回覧板を即時に配信！

会員が必要とする情報の周知にも活用



栄北第3町内会
阿部会長

電子化による情報格差が生まれないよう配慮して進めています。

加入世帯数

225世帯

班構成

14班

役員数

20名

地域の特徴

住居は戸建てが多く、共同住宅は賃貸が多い。
会員は高齢世帯が多いが、子育て世帯も増えている。

導入前の状況

会員が、回覧板の内容が一目でわかるように、目次付きの鏡文を作っていた。

- 毎月、鏡文を作るのに、担当者に内容を共有するため、回覧物の電子化を行っていた。

導入の目的

災害時など緊急性を要する情報を、即時周知する手段が現状では無かったため。

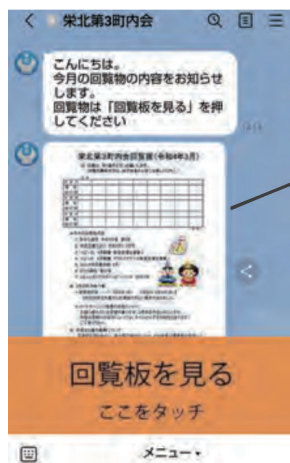
- 緊急性を要する情報について、LINEなどで連絡を取れるようにしたい。

導入ツール

LINE公式アカウント

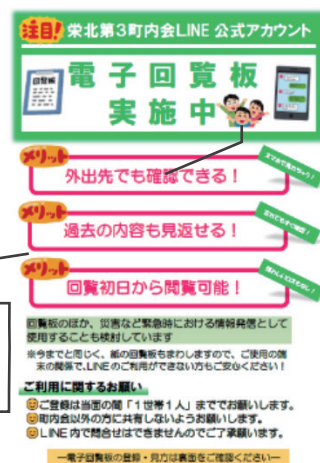
POINT

電子でも鏡文を添付し、一目で配信内容が分かるように！
回覧物が複数あるなかで、どのようなものが配信されているか一目で分かるように、従来の目次付きの鏡文も電子化して配信している。



内容が一目で分かるように、メッセージにも鏡文を配信

導入メリットをわかりやすく示したチラシを配布



導入の成果

いつでも情報が見返せると会員から好評！

登録者：42名（2022年3月現在）

導入後のアンケートでは「過去の回覧板も残るため、いつでも見返することができる」と会員から好評だった。
また、会員から要望が多かったパートナーシップ排雪のお知らせも、即時に周知することができた。

運用を続けるうえでの課題

- 登録者をより増やすためにも、さらなる周知などの工夫が必要。
- 行政からの情報も、町内会で即時に受け取れる仕組みが必要。

運用体制

1

担当者 3名

（会長、総務部長、総務副部長）

2

会員への周知方法

- 電子回覧板説明チラシを
班回覧（2回）
全戸配布（1回）

※

広報さっぽろにチラシを挟むことで全戸配布した

次年度以降の運用について

- ・会員間での情報格差が生じないように、当面は紙の回覧板と電子回覧板を併行して運用する。
- ・アンケートで要望があった情報など、会員のニーズに応じた情報発信を検討する。

メールで回覧板の更新をお知らせ 連絡協議会全体への普及も見据えて活動



北郷親栄第七町内会
綿谷会長

人の手を介さず、迅速で
確実な情報伝達が必要と
考えます。

加入世帯数

484世帯

班構成

37班

役員数

34人

地域の特徴

JR白石駅改修の影響により、人口が微増している。

導入前の状況

回覧板は月に1回実施しており、北郷親栄町内会連絡協議会のホームページでも町内会の情報を掲載している。

- 生活スタイルの多様化により、回覧板がうまく回らないことがある。

導入の目的

会員や役員の負担軽減と、スムーズで確実な情報伝達を目的とする。

- 町内会に関心を持ってもらい、より多くの会員に情報を届けたい。

導入ツール

eメッセージ回覧板

POINT

ホームページに回覧板を掲載し、メールで配信！
生活に関わる緊急連絡やその他のお知らせも配信。

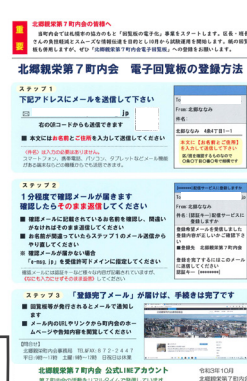
ガラケーやパソコンでも使用可能なツールを採用！
スマホを持たない会員でも情報を得やすくなる。



北郷親栄町内会
連絡協議会の
HPで過去の
回覧板を見ることが
できる

毎月回覧板の
更新情報が
メールで届く

登録説明
チラシを
配布



導入の 成果

生活に関する情報の発信・ 受け取りがスムーズに！

登録者：123名（2022年3月現在）

生活に関する情報を素早く発信できるようになった。最新の除排雪の状況を知ることができて便利という声もあった。今後登録者が半数以上になると、役員の手間や負担が減っていくという期待がある。

運用を続けるうえでの課題

- 町内会の情報が届きにくい集合住宅を中心に、登録の促進を強化する必要がある。
- 定期的な配信を続けたり、情報の見せ方を工夫するなどして、多くの会員に興味を持ってもらう必要がある。

運用体制

1

担当者 2名
(会長、事務局長)

eメッセージ回覧板
+ ホームページ

2

会員への周知方法

- 登録説明チラシを全戸配布(1回) + 毎月回覧
- ホームページに説明を掲載
- イベントでの声かけ
- 登録者に粗品を用意

次年度以降の運用について

- ・令和4年4月から電子回覧板の登録世帯は紙の回覧板を廃止する。(引き続き回覧を希望する方は除く)
- ・第1～6町内会も含めた連絡協議会すべての会員に向けた電子回覧板の運用も進める。

まずは役員間の コミュニケーションから！ 町内会活動のデジタル化を推進



厚別中央振興会
田中会長

便利さ実感で
若返った気分です！

加入世帯数 5,210世帯
班構成 278班
役員数 58名

地域の特徴
全体の約7割が集合住宅であり、その数は年々増加している。
地域の高齢化率は低いものの、役員は70代が多い。

導入検討前の状況

世帯数が多いため、一度の
回覧で500部も必要であり
大変な労力がかかる。

回覧板が回るのにも時間か
かり、イベントの申し込み
などがある場合は、1ヵ月半
以上前に回覧する必要が
ある。

導入の目的

情報共有に時間がかかると
いう課題を解決し、令和3年
度の活動方針でもある『デ
ジタル化』を図るため。

検討ツール eメッセージ回覧板

POINT

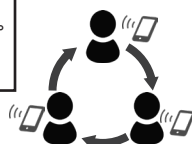
まずは役員間の連絡体制に『グループLINE』を導入！
デジタルツールに慣れつつ、役員間のコミュニケーションを活発化。

大規模町内会に合った運用方法を慎重に検討。
組織が大きいと、継続的なサポートが受けられるツールを検討。



**グループLINE
講習会の実施**
機能や使う際の
注意点などを
複数回に分けて
把握。

組織
ごとに
グループ
作成



**グループLINE
実際に運用**
役員間でグループ
を作成。
情報共有のやり方
や課題を発見。

運用者を
会員から
も募集



情報漏洩
を防ぐため
のツール

**eメッセージ回覧板
講習会の実施**
誰でも運用しやすい
よう、サポート付きの
専用ツールの導入を
検討。

検討の 成果

電子回覧板の検討を通じて、 町内会活動のデジタル化に 一歩前進！

電子回覧板の検討を行う中で、デジタル化における課題や運用上の
ルールなど、検討すべき内容が整理された。
これをきっかけに、電子回覧板導入の検討だけでなく、その他の活動
についても、デジタル化を進めていきたい。

運用を目指すうえでの課題

- 役員の高齢化が進んでいるため、担当者の選出や、外部への委託、地域から協力者を募るなどの方法を検討する必要がある。

検討経緯

- 1 LINE公式アカウント**
 - LINE公式アカウントも検討したが、加入世帯数や担当者の問題から断念。
- 2 eメッセージ回覧板**
 - 有料だが町内会向けのサービスのため、その他のツールより運用しやすい
 - 会員からの問い合わせもサポートしてくれるため、町内会の負担が少ない

次年度以降について

・今回検討したツール以外にも、役員の負担を軽減しつつ導入可能なツールを検討し、町内会活動のデジタル化を図っていく。

会員の声を踏まえ 丁寧に試験導入を実施!



ロピア西岡町内会
三浦会長

地域の情報を皆様のお手元で、いつでも確認できるツールとしてご利用頂きたいと思っています。

加入世帯数 55世帯 班構成 7班 役員数 7名 地域の特徴 小規模なマンション町内会で顔の見える関係。親子2世代など幅広い年齢層が居住。

導入前の状況

回覧板はイベント情報や福祉関連情報など、連合町内会の情報が多い。

町内会からの情報は回覧板ではなく、全戸配布することが多い。

- 回覧板は棟ごとに月に1～2回程度回している。

導入の目的

会員の回覧板を回す負担の軽減

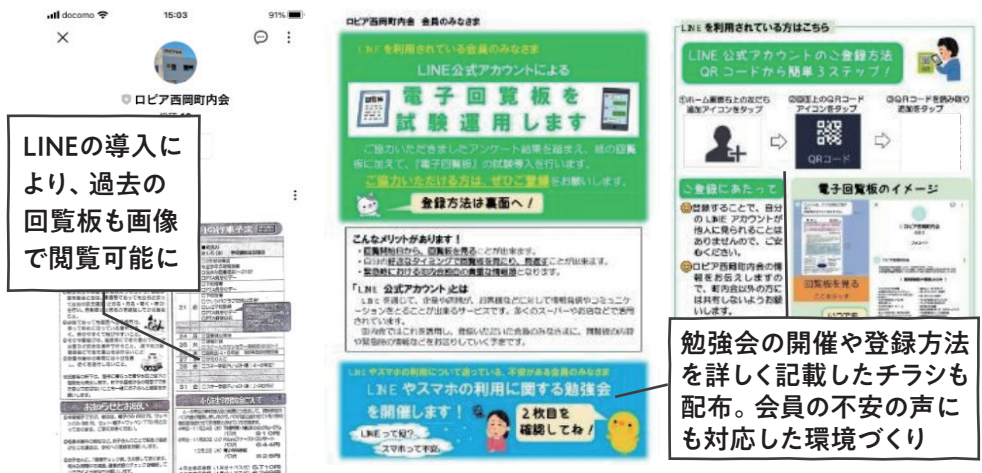
緊急性を要する情報の即時発信

導入ツール

LINE公式アカウント

POINT

紙の回覧板と併用しながら電子回覧板を広める!
試験導入前のアンケートでも、3割以上がLINEによる回覧板の配信を利用したいと回答。将来的には紙の回覧板を廃止することを目指しながら電子回覧板を運用中。



勉強会の開催や登録方法を詳しく記載したチラシも配布。会員の不安の声にも対応した環境づくり

導入の成果

「電子回覧板のみでよい」

という声も聞かれるなど、利用者からは好評の声! 登録者:15名(2022年3月現在)

試験運用後のアンケートでは、「とても満足」・「やや満足」が合わせて7割となっており、電子回覧板は好評だった。
また、導入前アンケートの結果、スマホ保有率が95%となっており、SNS活用の可能性を感じた。

運用を続けるうえでの課題

- 紙媒体をスキャンし回覧しているため、見づらい部分がある。より見やすい画像を提供する必要がある。
- スキャン作業の負担が大きい。改善を図る必要がある。

運用体制

1

担当者 1名(会長)

2

会員への周知方法

- 電子回覧板説明チラシを全戸配布(2回)



次年度以降の運用について

・紙の回覧板の継続に係るアンケートを実施し、徐々に電子回覧板利用の拡大を図る。

若い世代とのつながりに期待 会員に寄り添う町内会を目指して



北野町内会
松田会長

検討をきっかけに運営体制の見直しが進み、導入により若い世代と町内会のつながりが高まると期待しています。

加入世帯数 515世帯 班構成 24班 役員数 14名 地域の特徴 高齢世帯が多いが、子育て世帯も増えてきている。

導入前の状況

紙の回覧板のほかに連町が管理しているブログに町内会広報誌を掲載している。

- 町内会とは直接関係のない回覧物が多く、負担となっていた。



導入の目的

若い世代が参加しやすい環境づくりや班長の回覧にかかる負担軽減のため。

導入ツール マ・メール

POINT

会員が慣れ親しんだ、メールによる配信！
高齢者やガラケー使用者でも配信を受け取れるよう配慮。

セキュリティを第一に考えたツール選び！
会員の個人情報に関する不安を軽減することが大切。

北野町内会電子回覧板

受信トレイ



(^o^)/
この度は北野町内会電子回覧板にご入会いただき誠にありがとうございます。
よろしければ、以下のリンクをクリックしてあなたのプロフィールをお答えください。
操作できない場合はあなたの「お名前・所属・会員区分」を返信して頂ければこちらで登録させていただきます。
<http://www.mamail.jp/cgi-bin/mail/profile.cgi?cid=&uid=10142jGja5p>

メールで北野町内会の情報が届く

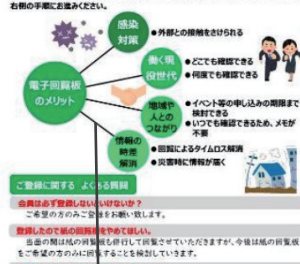
会員の皆様へ

電子回覧板導入に関するお知らせ

1. 電子回覧板導入のきっかけ
日頃より町内会の事業にご協力をお願いすることが多くあります。
町内会の事業に協力して、町内会が利用している回覧板の配布も大変な負担がありました。
その後も町内会において電子回覧板事業にかかる負担の軽減を図りたいと考えています。
町内会が負担の軽減を図りたいと考えています。
町内会が負担の軽減を図りたいと考えています。
2. 電子回覧板とは
パソコン、スマホ等のインターネットが利用できる環境を備えている会員様に対して、紙の回覧板とインターネットメールによる配信を行うサービスです。
3. 会員に寄り添う町内会の更なる発展を目指して電子回覧板とは
北野町内会としても多岐にわたるサービスとなります。将来的には、イベントの告知、広報やアンケートなど発展的な活用も考えています。まずは、最初の第一歩です。
そのため、これまで通り、紙による回覧板を並行して実施させていただきます。また、紙の回覧板も引き続き、町内会が負担の軽減を図りたいと考えています。
町内会が負担の軽減を図りたいと考えています。

北野町内会 電子回覧板のススメ

以下の電子回覧板に登録するメリットをお知らせいたします。登録をご希望される方は、右側の手順にお読みください。



電子回覧板の導入目的やメリットなどを詳しく説明したチラシを配布。登録しやすい環境をつくる

導入の成果

電子回覧板の検討をきっかけに デジタル化に向けた構想が促進

登録者：約 100 名 (2022年5月現在)

電子回覧板の導入をきっかけに、紙の回覧板と電子回覧板を管理する組織体制を見直し、IT推進部を新設した。

また、打ち合わせの際にはオンライン会議に挑戦し、若手役員からは「子育てしながら会議に参加できる」と好評だった。

運用を続けるうえでの課題

- 情報を周知するだけでなく、町内会活動に関心を持ってもらうための見せ方を工夫していきたい。
- 紙の回覧物をデータ化する手間がかかるため、今後は回覧物を持ち込む組織・団体の協力も必要。

運用体制

1

担当者 2名
(IT推進部)

2

会員への周知方法

- 登録を促すチラシを全戸配布(1回)



次年度以降の運用について

- 電子回覧板の配信作業を、役員個人の端末から行うのは運用者の負担となるため、町内会専用の端末購入を検討している。
- 当面は情報発信のみとするが、ツールを活用したイベントの出欠確認やアンケート調査などを検討する。

会員へのアンケートがきっかけ 講習会の実施で高齢者にも登録促進



澄川第七町内会
佐々木会長

将来的には電子回覧板を
災害時に活用できるように
していきたいと思っています。

加入世帯数 741世帯 班構成 29班 役員数 22名 地域の特徴 大型分譲マンション、賃貸マンションが多い。

導入前の状況

会員への情報発信は、戸建て住宅に紙の回覧板、マンションなどの集合住宅へ掲示板を活用している。

- 澄川地区連合会のホームページに町内会のページがあるが、会員の閲覧はあまり多くない。

導入の目的

会員にアンケート調査を行ったところ、「デジタルツール」を活用した情報発信を望む声があった。

- マンションの居住者にも、町内会の情報を届けやすくするため。

導入ツール

LINE公式アカウント、ホームページ

POINT

連合会のHPと連携! 情報を見返しやすくなるよう活用!
澄川地区連合会のホームページに回覧物のデータを掲載。

高齢者への講習会の実施で、登録の促進!
スマートフォンやLINEに不慣れな方を対象に登録のサポートを行った。

連合会のHPにアクセスできるリンク

LINEでのお知らせに関する資料へすぐにたどりつける

PDFになっているので、後から見返すことが楽に!

高年齢者の相談窓口.pdf

今月の回覧板はここをタップ

導入の成果

会員のニーズを取り入れ、素早い情報発信が可能に

登録者: **124** 名 (2022年3月現在)

どこにいても閲覧でき、どの年代にとっても便利という会員からの声があった。また、紙の回覧板では情報が全会員に届くまで時差があるが、電子回覧板はそれがなく、緊急の情報が迅速に届けられた。また、若い世代にも情報を届けるきっかけづくりになった。

運用を続けるうえでの課題

- 登録者を増やし、より多くの会員に情報が届くようにする。
- 災害発生時に活用できるような運用体制を整える。

運用体制

1 担当者 **3名**
(役員2名、サポーター1名)

2 会員への周知方法

- 登録を促すチラシを全戸配布(2回)
- マンション掲示板に登録チラシを常時掲示



次年度以降の運用について

・当面は登録者を増やすことを目標にしつつ、今後3年間は電子回覧板を継続していきたい。

町内会の行事や まちの情報も発信!



ヴェルビュタワー琴似町内会
福田会長

災害情報やイベント情報などの
発信にも活用していきます!

加入世帯数 154世帯
班構成 33班
役員数 19名

地域の特徴
約20年前のJR琴似駅前開発の一環で建設されたマンション。
1棟から構成されている町内会。

導入前の状況

通常の回覧板は実施しておらず、情報はマンション出入口の掲示板に掲示し、希望者のみ直接配布(約30世帯)している。

導入の目的

会員のニーズに応じ、紙の回覧板と併用しながらデジタルツールでの情報発信を行うため。

- 災害や防犯、通学路の状況などをリアルタイムに発信できるようにするため。

導入ツール

LINE公式アカウント

POINT

登録会の実施や日常的な伝きを配信!
町内会のイベントなどの場で電子回覧板説明チラシを配布し、登録のやり方などを教える登録会を実施することで登録を促進。また、日々の伝きの配信を行い、親しみやすさも。



導入メリットや登録方法をわかりやすく示したチラシを配布

イベント情報や防災のお知らせなど以外にも、日常的な伝きを配信



導入の 成果

回覧物以外の発信もでき、 災害時の情報発信体制の 準備ができた!

登録者: **55名** (2022年3月現在)

掲示板や紙の回覧板を併用しつつも、電子回覧板の導入によって、町内会の情報が迅速に届けられるようになった。
また、災害時も速報を会員に届けるツールとして電子回覧板を活用できる準備が整った。

運用を続けるうえでの課題

- 全戸に登録をしてもらい今後の運用についての会員からの意見を反映したい。

運用体制

1

担当者 **2名**
(会長、役員)

2

会員への周知方法

- 電子回覧板説明チラシを全戸配布(2回)
- 電子回覧板説明チラシを掲示板に掲示(2回)

次年度以降の運用について

- ・町内会の各行事、イベントの度にLINE公式アカウント登録チラシを配布し、登録者を増やす。
- ・当初は会長1人で運用していたが、担当者を1名増やすことができたため、サポートし合える体制を作っていく。

サポーターの力を借りて 地域ぐるみで取り組む!



四季彩の街・テイネニュータウン
町内会 渡部会長

地域ぐるみでデジタル化の体制
を強化したいと思っています。

加入世帯数	班構成	役員数	地域の特徴
696世帯	44班	54名	戸建て住宅が多く、2世帯住宅が増加している。 エリア内には大学もあり、学生ボランティアが地域の除雪を行っている。

導入検討前の状況

毎回「町内会だより」を作成し、他の回覧物と一緒に回覧している。

- 地域には高齢者も多く、スマホなどを持っていない方も多数いる。

導入の目的

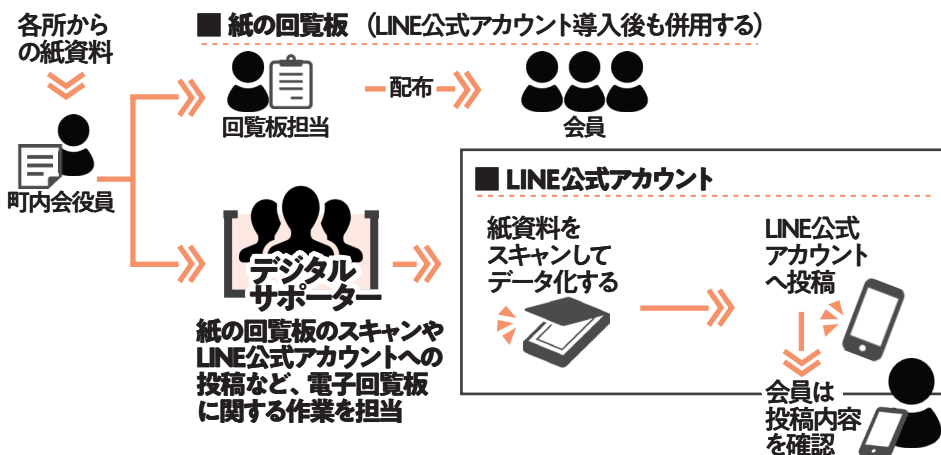
電子回覧板や役員間の連絡調整など、町内会活動のデジタル化を進めて、活動の担い手確保や円滑な情報の発信につなげていく。

検討ツール

LINE公式アカウント

POINT

電子回覧板の継続を見越した『デジタルサポーター』の募集! 女性部の中で試験運用を行い、情報発信の流れや担当者の作業における課題を整理。継続的な運用を目指すため「デジタルサポーター」の募集を行った。



検討の 成果

試験運用や勉強会をきっかけに 町内会のデジタル化と 新たな担い手発掘!

デジタルサポーター: 1名 (2022年3月現在)

電子回覧板の検討により、役員内での連絡手段としてグループLINEの活用が開始された。また、勉強会の実施などを通じ、電子回覧板を運用するデジタルサポーターが1名決定した。

運用を目指すうえでの課題

- 役員とデジタルサポーターの連携体制の構築が必要。
- 会員への周知の方法や時期などを考える必要がある。

周知方法

- 1 ● デジタルサポーターを募集する説明チラシを回覧(1回)

- 2 ● デジタルサポーター向け勉強会を実施

次年度以降について

- ・総務部にボランティア部としてデジタルサポーターを位置づける。
- ・電子回覧板の試験的運用を目指し、役員会で検討する。

6.実際の導入に向けて

電子回覧板を実際に町内会に導入するには、以下の3点が重要なポイントです。

電子回覧板の導入にあたってのポイント

①町内会と会員双方の視点からのツールの選定

②継続するための運用体制の構築

③長期的な会員への普及活動

①町内会と会員双方の視点からのツールの選定

町内会にとっての運用の利便性や会員にとっての利便性などを検討する。

町内会にとっての利便性▶使いやすく、費用が抑えられるかどうかなど。

会員にとっての利便性▶スマートフォン等で手軽に利用できるかどうかなど。

②継続するための運用体制の構築

特定の役員に頼らずに、今後も継続できる体制を整える。

・役員は数年で交代するため、次の役員も続けていける体制づくりを行う。

・操作マニュアルの作成や町内会専用の端末機器の購入など環境を整える。

③長期的な会員への普及活動

導入当初は広がらなくても、継続して周知することが大切。

・多くの会員が参加する町内会行事(清掃活動など)でチラシを配布するなど、機会があるごとに周知を図る。

・必要に応じて、スマートフォンの操作が苦手な会員に向けて、電子回覧板の講習会などを開催し、幅広い世代に対して登録の促進を行う。

本冊子では、町内会の電子回覧板の導入について、検討するためのポイントや考え方などを中心に、事例を交えてまとめました。

デジタル化の進展とともに、スマートフォンの保有率が高まり、若者だけでなく多くの世代においてスマートフォンを使って情報を得ることが日常化してきています。

回覧板は、会員に町内会の活動を知ってもらうための重要な情報伝達手段ですが、紙の回覧板だと世帯の代表者が内容を確認し、すぐに隣家へ回覧してしまうため、特定の会員しか内容を確認することができませんでした。電子回覧板を活用し、より多くの会員に情報を伝えることで、町内会活動の「見える化」や活動への参加促進にもつながります。

実際の導入に向けては、各町内会の実情に合わせて無理のない計画を立てることが必要ですが、手軽に町内会を知ること、「町内会活動に参加してみよう」という会員を増やす第一歩として、電子回覧板の導入を検討してみたいはいかがでしょうか。

町内会の電子回覧板



導入の手引き

編集・発行

札幌市市民文化局市民自治推進室市民自治推進課

TEL:011-211-2253

ホームページ:<https://www.city.sapporo.jp/shimin/jichi/>

Eメール:shiminjichi@city.sapporo.jp

令和4年(2022年)7月 発行

SAPPORO



さっぽろ市
01-D02-22-886
R4-1-74